

文学部生になったら — 在学生に聞く —

垣内 日向

(KAKIUCHI Hinata 3年生)
大阪府立高津高等学校卒業

1週間の時間割

	月	火	水	木	金
1				西洋史特殊講義	
2		人文学演習 A	国文学演習		国文学特殊講義
3		国文学特殊講義		アメリカ文学特殊講義	イギリス文学特殊講義
4		芸術学特殊講義			国文学演習
5					国語学特殊講義

3年生にもなると、教養科目や外国語の必要単位を取り切っているの、時間割にも余裕が出てきます。時間割は自分の専修である国文学の授業をメインに組んでいます。他にも自由選択科目として英米文学など自分の興味に合う文学部の専門科目の授業を履修しています。

ある1日の過ごし方

7:30 授業は2限からですが、大阪の実家から通っているのこの時間に起床します。9時の電車で乗れるように朝の身支度をします。通学にはおよそ2時間弱かかっているので、電車内では本を読んだりして時間を潰しています。

10:40 2限 国文学特殊講義。この授業では大江健三郎の作品について学びます。難解な授業なので、ノートを取りながら頑張ります。

12:10 2限の終了。お昼の時間は食堂がとて混んで長い行列があるので、友達と急いで食堂に向かいます。時には、生協でお弁当を買って中庭で昼食を取ることもあります。

13:20 3限 イギリス文学特殊講義。シェイクスピアの「オセロー」についての授業です。この授業は英語のテキストや「オセロー」の映像化劇案作品なども使いつながりながら授業が行われます。

15:10 4限 国文学演習。この授業は演習形式なので受講者が自らの興味に従って中古・中世の文学作品について発表を行い、教員と受講者同士で議論を行います。私は今期「太平記」についての発表をしました。

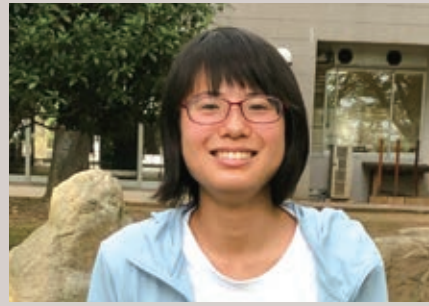
17:00 5限 国語学特殊講義。平安時代の日本語について学びます。この日の授業のラストで、5限目ともなるとしんどくなっていますが、必修の授業なので単位が取れるようになんとか集中します。

18:30 5限の終了。下校。家に帰ると8時半ごろになります。お腹がすく時間なので、友達と六甲道で夜ご飯を食べながら帰ることもあります。

22:00 就寝。土日は早朝のバイトを入れているので早めの時間に寝ます。

私は1年生、2年生の間、コロナ禍の真っ只中にありほとんどの授業がオンラインとなり中々大学のキャンパスに通えない時期が続きました。3年生となり大半の授業が対面で行われるようになり、新鮮な気持ちで大学に通っています。坂道を上る登校は少見ですが、キャンパスから神戸の街を見渡すことができる景色は爽快です。演習(ゼミ)の授業では1セメスターの間に少人数の受講生と教員が互いに議論を交わしながら、主体的かつ深く学ぶことができます。また少人数でありながらも受講生は2~4年生と幅広いので、横のつながりだけでなく縦のつながりもできます。

神戸文学部の特徴といえば何といっても15個の専修です。その細分化された専修とそれに合わせたカリキュラムがあり、教員によるハイレベルで専門的な授業を受講することができます。専修は文学から知識システムとその幅は広くどの専修も魅力的ですが、2年生になって専修に配属されるまで、各専修の入門の授業を通してほぼ1年間専修を決める時間があるので、ゆっくりと専修を決めることができます。そのために入学前に学びたい学問が具体的に決まっていなくてもおすすめの学部だと思えます。また自分の専修以外の授業も、自由選択科目という枠で必修単位として取ることが求められるので、専修だけに縛られない広い知見を得ることができるのも魅力です。



山本 陽菜乃

(YAMAMOTO Hinano 1年生)
福井県立武生高等学校卒業

1週間の時間割

	月	火	水	木	金
1			English Communication		初年次セミナー
2	English Literacy	人文学導入演習(英米文学)	健康・スポーツ科学実習基礎		知識システム入門
3		西洋古典語(ギリシア語)	情報基礎	人文学導入演習(国文学)	
4	文学入門	ドイツ語初級		ドイツ語初級	
5					

1年生の授業には、入門系の授業など文学部や各専修での学びの内容を知ることができ授業がたくさんあります。単位を考慮しつつ自分で授業を組むのは大変ですが、空きコマを作って課題・休憩の時間にあてることもできますし、自由な時間割はまさに大学生の醍醐味だと思います。

ある1日の過ごし方

7:00 起床。授業が2限からの日の朝は、ある程度時間に余裕があります。1限から授業の日はもう少し早めに起きます。

9:30 電車で登校。私は下宿先が大学から離れているので、授業開始の1時間以上には家を出ます。駅から学校までの上り坂に苦しみず。

10:40 2限の英米文学の授業。数人の先生によるオムニバス形式の講義です。文学とありますが、文学作品だけでなく海外の映画やドラマを鑑賞することもあります。

12:10 昼食。曜日によっては友達と食堂で食べます。食堂が混んでいるときは生協の購買で昼食を買います。食後の余った時間で課題を終わらせることもあります。

13:20 3限の古代ギリシア語。こういった大学でしか学べない授業があるのが魅力的です。少人数のためアットホームな雰囲気の講義です。

15:10 4限のドイツ語。中学・高校の英語の授業がドイツ語&大学版になった感じです。必修の授業があるキャンパスは文学部のキャンパスから離れているので、前の授業の終了時刻によっては休み時間がすべて移動時間になります。

16:40 友達と一緒に下校。下り坂になるので、登校時よりも駅までの所要時間が心なしか短くなります。途中で買い物をするかも。

17:40 帰宅。家事をしたり、課題をしたり、趣味に時間を費やしたりします。

23:30 就寝。

文学部という文学だけをイメージしがちですが、実際は哲学、歴史学、心理学、言語学など多種多様な学問の分野があります。神戸大学の文学部では、入門系の授業など文学部での学びについて知ることができる授業が多数開講されています。あまり興味や関心がなかった分野でも、授業を受けて興味があったということも多いです。また神戸大学には授業だけでなく、実際に各専修の先生らと気軽に雰囲気話をしてその分野の魅力を知ることのできるイベントもあり、専修を決定するうえで参考となる材料がたくさん与えられています。専修を決める時間もたっぷりあり、様々な分野に自分の興味を広げながら十二分に悩むことができるのが神戸大学文学部の魅力だと思います。また、留学や資格取得についても手厚いサポートがされていますし、困ったときでもとても丁寧に対応してもらえます。

神戸大学には様々なバックグラウンドを持った優秀な学生が全国から集まっており、自分の視野を広げたいという点でぴったりの場所です。実際、私も授業で他の学生の意見を聞いて、こんな見方もあるんだ、という視点から物事を見ることもできるんだと驚くことが多くあり、毎日が発見の嵐だといっても過言ではありません。自分には気付けもしなかった多種多様な考え方や視点に触れることは、大きな刺激となります。そうやって新しい世界を知り自分を高めたい神戸大学文学部は、非常に魅力的な場所です。

●**教養科目** 教養科目には、原則として1・2年次に履修する基礎教養科目と総合教養科目、3・4年次に履修する高度教養科目があります。人文科学だけでなく社会科学や自然科学についても幅広く現代の教養として身に付け、他分野にまたがる課題を考慮協働して解決する力を養います。文学部で人文学の研究を進める上でも、しっかりと学んでおくことが必要です。

●**外国語科目** 外国語科目は、「外国語Ⅰ」として英語を、「外国語Ⅱ」として、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語のなかからひとつを選び、合わせて2か国語を学びます。文学部ではこの他に、韓国語、イタリア語、西洋古典語(古代ギリシア語とラテン語)の授業も開講されていますが、専門次第で学生はさまざまな言語を独修します。人文学を学ぶ者にとって外国語の習得は必要不可欠です。

●**基礎科目** 基礎科目は、人文学の基礎を学び、専門科目での学修を豊かなものにするための準備を行う科目です。専修決定後は、それぞれの専門を深く探究することになりますが、教養科目や基礎科目は、そのための礎石であり、自分の専門研究に広がりを与えてくれるものです。基礎科目には、各専修の入門、人文学導入演習、人文学基礎などがあります。また、大学生として自立的な学びを促すため、初年次セミナーが用意されています。

●**専門科目** 専門科目は、専門的な講義、演習、実習などからなります。単位制度に基づく大学の授業は、必修科目と選択科目の取得単位数がそれぞれ決められています。必修科目は必ず履修しなければなりません。選択科目は一定の範囲内から自由に選択できますが、それらは講座ごとに細かく指定されていますので、注意が必要です。また、ひとつひとつの授業の学習を徹底するために、1年間で履修登録できる単位数には上限が定められています。したがって、履修にあたっては、入学後に配布される学生便覧やガイダンスでの説明に従い、各学期の始めに、どの授業を取りたいか、受けなければならないかを十分に考えて、計画的に登録してください。

●**講義と演習** — 「徹底した少人数教育と課題探究能力の開発」
文学部で高い割合を占める授業科目が、特定のテーマを探究する「特殊講義」と、数人から十数人で行う「演習」、いわゆるゼミです。実験やフィールドワークを含む「実習」も同じく少人数で行われます。中でも、文献や資料を講読したり、自分で選んだテーマについて研究報告を行い、受講者で議論を戦わせたりする「演習」は、専門分野の研究手法や考え方を習得し、自ら課題を発見し解決する能力を鍛えるうえで大変重要です。

●**卒業論文**
卒業論文は、文学部4年間の学習と研究の結晶です。自分で研究テーマを決め、指導を受けながら、論文作成のための調査や分析も自力で行ないます。これまでに挙げた授業科目から必要な単位数を取得した上で、原則として20,000字(400字詰め原稿用紙で50枚)程度の卒業論文を作成し、口述試験(口頭試問)に合格すれば、卒業となります。

入学から卒業まで

① 専修の決定 — 「よく考えて自分の専門を決めることができる」

文学部には、哲学、文学、史学、知識システム、社会文化という5講座に15の専修があります。1年次の11月末頃に専修を決め、2年生からそれぞれの専修に所属することになります。自分は文学部でなにを研究したいのか、じっくり考えてから選ぶことができます。そのために、各講座ごとのガイダンスともなる「入門」、人文学への導入をはかる「人文学導入演習」、そして各専修での研究の基礎を身につける「人文学基礎」など、学生の興味・関心に応じて選択できるよう、いくつかの内容に分けて1年生向けの授業が複数開講されています。これらを参考に、自分が進む専門を決定します。

② 文学部の授業科目 — 「四年一貫て学ぶ人文学の多様な拡がり」

文学部の学生が4年間に学ぶ授業科目は、全学共通授業科目と文学部の専門科目に分けることができます。全学共通授業科目は、教養科目、外国語科目、健康・スポーツ科学などで構成されています。文学部の専門科目は、基礎科目、自由選択科目、卒業論文関連科目、卒業論文からなります。下の図に履修に関する学年ごとの大まかな流れを示します。

1年	2年	3年	4年
基礎教養科目 総合教養科目	基礎教養科目 総合教養科目	高度教養科目	高度教養科目
外国語科目	外国語科目	専門科目	専門科目
健康・スポーツ科学	専門科目		卒業論文
専門科目 (基礎科目)			

LET

Faculty of Letters,
Kobe University 2023

文学部への好奇心をアップする情報紙

神戸大学文学部ホームページ

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/>身 世
近 界
に は*The world is close at hand*

大学では、これまでの小中高の学校とは大きく異なる学び・体験が得られる。多くの留学生と出会うことができるというのも、そのうちのひとつだろう。日本人学生の中には、留学生との交流に強い興味のある人もいれば、なんとなく尻込みしてしまうという人も多いと思う。ここでは、その両方の人に向けて、文学部での留学生と日本人学生の関わりについて、少し具体的に話したい。

私は、文学部の留学生関連プログラムの中でも特に「神戸オックスフォード日本学プログラム(略称KOJSP=Kobe-Oxford Japanese Studies Program)」と呼ばれるものを担当している。オックスフォード大学東洋学部日本語専攻の2年生全員が1年間を神戸大学文学部で学習するというものだ。オックスフォード大学といえば、言わずと知れた世界でも屈指の名門校である。毎年優秀な学生たちがやって来るが、そんなオックスフォード生も、20歳前後の普通の若者に変わらない。特に文学部の場合、このKOJSP生以外も含めたどの留学生にもいえることだが、日本の文化と日本語に強い興味を持ち、たくさんの日本人学生と友達になりたいと思っている。KOJSP生含め、各国から集まったそんな留学生たちが、文学部にも数多く在籍している。教員側も、できるだけ日本人学生と留学生が交流を持てるようにと考えているが、これはもちろん、留学生のためだけではない。日



本人学生が、気軽に異文化や他言語に触れ、その中で自ずから視野を広げていく絶好のチャンスでもある。

日本人学生の留学生との関わるきっかけとしては、①交流企画に参加する ②同じ授業に参加する ③留学生チューターになる、などがある。①の交流企画としては、文学部では月に一度のインターナショナルアワーを開催し、留学生と日本人学生と一緒に文化体験をしたり、特定のトピックについてお互いの文化にまつわる情報を交換したりしている。②では、授業をきいて一緒にディスカッションするものや、協働作業でイベントを運営するものなどもある。③については、一人の留学生について、日本での生活および学習に協力するというものである。交流と言うと、言語の問題が大きな障壁になると思う人もいるかもしれないが、実はこれらはすべて日本語だけでも参加可能である。特に文学部では、もともと日本語力が高い留学生や、日本語力向上に非常に熱心な留学生が多く、むしろ日本語でコミュニケーションをとることが喜ばれることが多い。もちろん、中には日本語がまだ苦手な人や日本語以外で表現したいという状況もあり、英語を中心として日本人学生が他言語に親しみ練習する場として活用してもらうこともできる。また、文学部内だけでなく全学的に提供されている国際交流が可能な授業や企画なども数多くあり、自分のやりたいことや語学レベルに合わせて参加できる。是非自分で調べたり、気軽に教員にきくなどして、情報を集めてほしい。

もう少し具体的に、私が担当した交流企画について見てみよう。一例として、オンラインでのランゲージエクスチェンジをあげる。コロナ禍で留学生が入国できず、なかなか学生同士の交流ができない状況をなんとかしたいと思い企画したものである。これは、留学生と日本人学生のペアが事前に話題を決めておき、それについて

日本語で30分、英語など他言語で30分、話をするという形で行った。慣れない言語でも、話す内容を決め、そこで使う表現を前もって調べておくと、全く準備無しでいるよりも意外なほど話ができる。また、お互いに教え合うことで、良好な関係性を作りやすい。(このように、文脈を絞った自分に手の届くコミュニケーションを繰り返してパフォーマンスを上げていくのは、語学学習の進め方のひとつのコツでもある。) 幸い、2022年4月からは留学生の入国が叶い、既にキャンパスで日本人学生と共に学ぶようになっていくが、オンラインでの交流企画や授業を通して仲良くなった留学生と日本人学生が友達付き合いをするようになったとの報告も聞いている。

このようなコミュニケーションの中で、学生たちは、各地域の文化がいかに異なっており、自分の思っていた常識が当然のものではないことを個々のケースから肌で学んだり、跳ね返って客観的に見た自国の文化への理解を深めたりしている。個人的には、留学生たちの視点は、「他者のもの」でありながら、同じ人間としてこのような考え方や文化もありうると、自分の中にある可能性として学ばせてもらっている。これは、文学部で学ぶすべての人文知にも繋がっていくものであろう。

情報通信技術が急速に発達していく昨今、国境による区別はどんどん小さくなり、国際交流はますます「普通」のものになってきている。それを遠ざけることは、世界の潮流や世界で共有する知から遅れをとることに繋がってしまうだろう。世界は身近に迫っており、大学でもそれを感じることができる。是非神戸大学での学びの一部として、積極的に国際交流に参加してもらえればと願っている。

助教
林 由華

「間口の広い」文学部の授業

本誌には、文学部の授業は「少人数」という記述が出てきますが、もう一つ、文学部の授業の特徴として、「主要科目に学年指定がない」ことを挙げたいと思います。

文学部では、1年次に「文学入門」「人文学基礎」「人文学導入演習」などの基礎科目で土台を固めた後は、選択必修科目である「卒業論文関連科目」4.2単位を、2年生から4年生までの3年間かけて単位をそろえていくこととなります。その結果、例えば私が担当している科目だと、「国語学特殊講義」の教室に、2年生から4年生までが集まることとなります。そればかりか、この科目は大学院の「国語学特殊研究」と重ね合わせ科目になっているため、大学院生も混じります。科目等履修生が加わることもあります。

このような運用を行っている学部もあり、例えば本学経済学部では、学年によって受けられる科目が決まっていたり、「履修前提科目」が指定されていたりします。2年次以上で履修できる「経済成長論」は、1年次の「中級ミクロ経済学」と2年次の「中級マクロ経済学」とが履修前提科目となっているのがその例であり、2年生に上がった人がいきなり「経済成長論」を履修することは想定されていません。土台を固めながら高い建物建てていくイメージだと思います。

それでは、2年生から大学院生までが同じ授業を受ける文学部というのは、2年生に大学院レベルの「難しい」授業を受けさせる、理不尽な学部なのでしょうか。それとも、人文学の大学院生というのは、2年生でも分かるような「易しい」内容で満足する人たちののでしょうか。

私は、文学部の授業というのは、「難しい」とか「易しい」とか、そういう次元のものではないのだと思います。物理的には同じ講義であっても、2年生には2年生に相応の聞き

どころがあり、大学院生には大学院生に相応のものを吸収できる。どこからでも入れて、好きなところを好きなだけ味わうことができるのが人文学の醍醐味なのであって、「ここまでが、2年生で履修する」と論の内容」「ここからは、〇〇論の履修を前提にした××学の内容」のような細分化や範囲の設定は、文学部にはなじまないのだと思います。下から建物を作っていくイメージではなく、1年次に基礎を固めたら、あとは3年間、漆を重ね塗りするようにして学問を深めていく；そんな図式でしょうか。

このしくみは、教員にとつてもある種の緊張感をもたらすものです。あらかじめ定められた範囲のない、国語学の広い範囲からテーマを切り出してきた、まとまった内容の講義を行う。しかも人の学生は何年か続けて国語学特殊講義を受講するわけですから、同じ内容を毎年扱うわけにはいきません。一人の学生が、ある程度バランスよく国語学の知識を得るためにはどういった内容を組み立てるのがよいか；そんなことを考えているうちに、教員の方にもしばしば新たな着想がもたらされます。大学教員の業務に「教育」と「研究」がありますが、両者が不可分であることをかみしめるのです。

◎今回 お話しくださった先生
石山 裕慈 准教授 (国文学専修)



田上 絢萌
TANOUÉ Ayame
2022年3月卒業
私立四天王寺中学校常勤講師

先輩の足跡！ 学部時代の思い出、あれこれ

皆さんは大学で何を得心したいと考えていますか？私の大学での目標は「視野を広げる」ことでした。そして神戸大学文学部は私のそんな思いに120%応えてくれました。

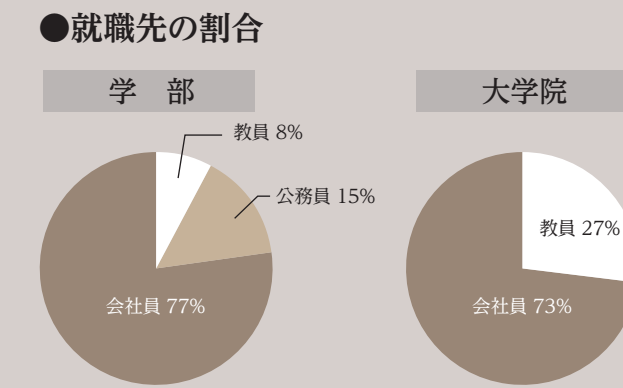
私はそもそも心理学や農学にも興味があり、それらの学問と教員免許取得が両立できる学校として神戸大学を選んではいたのですが、自分が少数派であるとは思っていたので、ある程度交渉が必要になるだろうと思っていました。しかし、文学部はなんと他の学部の授業も全て卒業単位数に含めており、同級生でも同じく他学部に授業を取りに行く人が少なからずいたのです！おかげで何故か文学部で農場経営や、四次元空間について話し合うことができ

ました。また、文学部内でも当然のように国文学の友人が英米文学や哲学などの授業をとり、社会学の友人が国語学の授業をとるなど他専修の人と交流する機会も多くあったため、互いの研究対象について違う視点からの意見を交換することもしばしばありました。実は、私は常にアルバイトと部活に忙殺されており、定まった勉強の時間を取れませんでした。しかし、昼食時や通学路での友人との会話のおかげで気づきやひらめきを得ることができ、中身の詰まった学問をすることができたのではないかと思います。このような会話を楽しめる友人、授業が多い教職課程を励まし合い乗り切った仲間たち、そして全てを諦めない私を優しく見守りつつ、思考を高めへと

導いてくださった教授の方々とお出会えたことは本当に幸せで、4年と思えないほど大幅に成長できた貴重な期間だったと思います。また、大学が山の上にあるというのも、初めはデメリットに思われるかもしれませんが、友達と文句も含め様々な話をしながら足を動かし、景色を楽しむことでストレスは軽減されます。さらに物理的にも広い視野をもつことで、気分が落ち込んでも自分の悩みなんで小さなことだと思えて、以前よりも物事を大きく捉え取捨選択することが上手になった気がしました。それに何よりとてもいい思い出になりますよ！是非皆さんも、神戸大学文学部で広い世界を体感してみてください！

Employment	各業界での活躍
	公務員、民間企業への就職、大学院への進学など、優れた進路実績があります。

●令和3年度(2021年度)卒業生・修了者の進路データ	
学部	大学院
卒業生数	110
進学者数(大学院)	21
就職者数	79
その他	10
(2022年7月時点)	(2022年3月時点)



●主な就職先の名称	
学部	大学院
兵庫県立高等学校教員、大阪府立高等学校教員、日立製作所、大和ハウス工業、近畿農政局、近畿総合通信局、大阪労働局、京都中央信用金庫、阪急阪神百貨店、三井不動産リアルティ、伊藤ハム、サッポロビール、NTTコミュニケーションズ、神戸市役所、四国電力、大阪航空局、大阪労働局、六甲学院中学校・高等学校教員、三菱UFJ信託銀行、第一生命保険、東京税関、大阪税関、ファミリーマート	楽天グループ、TOTO、ネスレ日本、私立姫路女学院中学校・高等学校教員、兵庫県立高等学校教員、広島県立高等学校教員、いすゞ自動車、追手門学院大学附属大手前高校教員、三菱自動車、アマゾンジャパン合同会社、独立行政法人日本貿易振興機構、学校法人河合塾
大学院前期課程	大谷大学、秋田公立美術大学
大学院後期課程	